

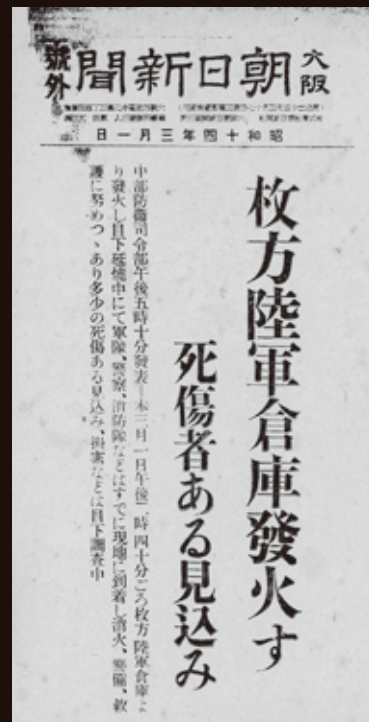
1939年3月1日 午後2時45分

禁野火薬庫大爆発

死者 94人
負傷者 602人
家屋全半壊焼 821戸
被災世帯 4425世帯



京阪国道を逃げる住民（朝日新聞社）



朝日新聞号外 昭和14年3月1日

1939(昭和14)年3月1日午後2時45分、禁野火薬庫第15号倉庫で爆発事故が発生しました。中国・上海から返送されてきた砲弾の解体作業中に発火したのが原因でした。異常に気付いた職員は、枚方製造所や枚方町消防組に応援を求め、消火に努めましたが、火は勢いを増し、3時29分に別の爆弾に引火。京阪一带を揺るがす大音響とともに大爆発しました。黒煙はもうもうと上がり、燃えた砲弾の破片は周囲に飛散。倉庫は次々に爆発し、午後7時までに29回爆発しました。

陸軍の報告書によると、爆発の被害は消防組の殉職者を含め死者94人、負傷者602人、家屋の全半壊焼821戸、被災世帯4425世帯に達しました。報告書以外にも爆発の死者を記す帳簿もあることから、実際の被害はこの数字を上回る規模だったと推測されています。枚方町や大阪府は救援に力を注ぎ、被災者等には陸軍の補償費・慰謝料が支給され、各地から義援金・見舞金が寄せられました。しかし、日中戦争下で爆発はなるべく目立たないように配慮され、爆発地の立ち入りや写真撮影も制限されました。爆発後、禁野火薬庫は3分の1の大きさに縮小されましたが、残り3分の2の土地は枚方製造所のものとなり、軍



爆風で倒れた火薬庫



爆発後の薬莖整理

過去にも爆発していた火薬庫

1939(昭和14)年に大爆発した禁野火薬庫ですが、1909(明治42)年にも爆発しています。8月の暑さでダイナマイトが発火し、爆発しました。死者は出ませんでしたが、枚方町をはじめ周辺の町村長が撤去を請願。しかし、火薬庫は拡張されました。



(市史資料室提供)

需施設自体は拡大しました。戦後1956(昭和31)年、火薬庫跡には中宮第二団地が完成。爆発の起点となった場所には、工員38人の殉職者を慰霊する「殉職義烈之碑」が建てられています。



殉職義烈之碑



平和資料室（中央図書館1階）

禁野火薬庫爆発当時の様子が分かる写真パネルや軍服など、戦争に関する資料を展示しています。毎年夏には、特別展も開催。ぜひ行ってみましょう。入場無料。



証言 1

砲弾の破片が落ちてくる中、布団をかぶって逃げました

当時は小学1年生。3回目の大きな爆発で避難を決めました。母が布団をかぶせてくれて、煙の中、淀川に向かって必死で走りました。途中、砲弾の破片があちこちに飛んできて、ピーン、ピーンと電線が切れて怖かったです。

山本 勇治さん(当時7歳)

証言 2

砲弾の破片で家の柱が曲がりました

爆発が起きて、着の身着のまま尊延寺まで走って逃げました。道端には、衣類や持ち物が捨ててありましたね。爆発が収まって田口の家に帰ると、砲弾の破片が柱に当たって曲がっていて恐ろしかったです。

村田 文子さん(当時5歳)



聴いてみよう！戦争体験談

市公式YouTubeで戦争体験者の貴重な証言動画が観られるよ！



市公式YouTube



ひこぼしくん